

令和5年度 仙台市 英語教育改善プラン

英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの授業における言語活動の割合を90%以上とし、「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定と活用を通して、指導と評価の一体化を図り、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

目標

1. 現状

改善が進んだ点

- ①授業におけるICT機器の活用において、「児童がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動」が前年度より4.3%増加する等、9項目中6つの内容で増加した。
- ②5・6年生のALTの参画状況において、「やりとり・発表のモデル提示」や「児童のやりとりの相手」、「発音のモデル・発音指導」の3つの項目で100%を示し、積極的なALTの活用が見られた。

未だ改善が必要な点

- ①学習到達目標の整備状況が、設定57.6%、公表13.6%、達成状況の把握38.1%といずれも目標値を大きく下回っており、「CAN-DOリスト」の整備や活用の促進が必要である。
- ②児童の言語活動時間の割合が、86.4%で前年度より3.7%下回っており、授業改善に伸び悩みが見られる。

2. 分析

- ①「ICTを活用した効果的な言語活動」について、悉皆研修の中で、英語専科教員によるICTを活用した授業動画等も活用したことで、教員の理解が深まり、成果につながった。
- ②・JTEやHRT、ALT対象の各研修において「ALTの活用及び役割」についての演習等を取り入れたことにより、ALT活用の理解と促進が図られた。
- ・仙台市独自採用ALTが小学校訪問を行い、各校のJTEとALTによるチーム・ティーチングを参観し、助言等を行ったことにより積極的な活用につながった。

- ①教科担任制である中・高に比べ「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表、達成の把握に関する指導上の必要性や有効性が十分に理解されていない。
- ②「4技能5領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことを、研修等において、継続して周知していく必要があった。

3. 施策・事業

- ①①②「**小学校外国語活動・外国語科研修**」
- ・指導と評価の一体化や授業におけるICT活用等授業づくりの基礎・基本について、講義・演習を通して学ぶ。
- ②②「**ALT教育講座**」（ALT及び外国語担当教員対象）
- ・チーム・ティーチングの在り方や指導法、ALTの活用や役割について、演習等を通して理解を深める。研修は全て英語で行う。
- ①②①②「**小学校外国語教育研修**」
- ・ALTの活用及び役割について、演習等を通して理解を深める。
 - ・仙台市外国語教育推進拠点校5校による公開授業の参観を通して、効果的なALTやICT、CAN-DOリストの活用、及び外国語における言語活動について理解を深める。
 - ・全ての校種において外国語科の目標を「何ができるようになるか」という観点で設定しており、小中の接続を意識した指導が重要であることを踏まえ、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定と学習評価への活用の必要性について理解を深める。
- ①①②「**小学校・中学校外国語小中連携推進協議会**」
- ・中学校区毎のグループ討議では、デジタル教科書を含めたICTの効果的な活用や授業における言語活動の充実、CAN-DOリスト等もテーマに取り入れ、学習指導要領に基づいた小中連携の推進策を協議する。
- ②②「**仙台市独自採用ALTによる小学校訪問**」
- ・全小学校対象に、ALTとのチーム・ティーチングで行われる授業を独自採用ALTや教育アドバイザーが参観し、助言等を行う。
- ◎一定の英語力を有する小学校教師を確保するため、英語力に関する専門性を有する教員を教員採用選考における加点措置をすることにより積極的に採用する。

令和5年度 仙台市 英語教育改善プラン

目標

英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの授業における言語活動の割合を85%以上とし、それらの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①学習到達目標の整備状況において、公表が18.5%、達成状況の把握が4.7%前年度より増加した。
- ②授業におけるICT機器の活用において、「生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動」が前年度より6.2%増加する等、9項目中6つの内容で改善した。

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する(と思われる)生徒の割合は、41.2%と前年度と比較し、変化が見られない。
- ②生徒の英語による言語活動時間の割合、及び授業における英語担当教師の英語使用状況がいずれも63.1%で、下回っており、授業改善に伸び悩みが見られる。

2. 分析

- ①研修を通して、指導と評価の一体化や小中高の接続を意識した指導をする上での「CAN-DOリスト」の設定や活用の必要性に関して、教員の理解が深まり、成果につながった。公表と達成状況の把握に関しては、改善の余地があるため、今後も研修等を通じ、全ての外国語担当教員への周知と積極的活用を促す必要がある。
- ②「デジタル教科書を含めたICTを活用した効果的な言語活動」等について、悉皆研修の中で、講義・演習や実践事例等の共有を行ったことで、教員の理解が深まり、言語活動における積極的なICTの活用につながった。
- ①②求められる言語活動の内容や方法への理解が十分とは言えず、「生徒の英語による言語活動時間」や「授業における英語担当教師の英語使用状況」等の要素が生徒の英語力の向上に影響を与えていると考えられる。領域毎の具体的な言語活動の理解やよりコミュニケーションを重視した指導の大切さを研修等で継続して周知していく必要があった。

3. 施策・事業

- ①②「**中学校外国語科研修**」
 - ・指導と評価の一体化や授業づくりの基礎・基本について、講義・演習を通して学ぶ。
- ①②②「**小学校・中学校外国語小中連携推進協議会**」
 - ・中学校区毎のグループ討議では、デジタル教科書を含めたICTの効果的な活用や授業における言語活動の充実、CAN-DOリスト等もテーマに取り入れ、学習指導要領に基づいた小中連携の推進策を協議する。
- ①②「**ALT教育講座**」(ALT及び外国語担当教員対象)
 - ・チーム・ティーチングの在り方や指導法、ALTの活用や役割について、演習等を通して理解を深める。研修は全て英語で行う。
- ①②「**英語運用能力講座**」
 - ・各校種のテキストを活用した4技能5領域を意識した授業体験を通して、実践的指導力及び英語運用能力の向上を図る。研修は全て英語で行う。
- ①②「**外国語活動・外国語科研修**」
 - ・授業参観と協議を通して、校種連携の在り方や授業づくりについて理解を深める。
- ①②「**確かな学力研修委員会 授業力レベルアップ研修**」
 - ・仙台市標準学力検査の結果分析により明らかになった課題について、改善のための授業や指導事例について実践発表を行い、指導力の向上を図る。
- ①②**令和5年度文部科学省委託事業「先導的なオンライン研修実証研究事業」における教員の参加**
 - ・オンライン研修への参加を通して、教師の指導力・英語力向上を図り、生徒の英語力の向上に資する。

令和5年度 仙台市 英語教育改善プラン

目標

仙台の高校生が、情報や考えを的確に理解し、それらを活用し英語で適切に表現し伝えあったりすることができる、自律的で主体的なコミュニケーション能力の育成を目指す。（卒業時CEFR A2レベル相当以上の達成目標 55%以上）

1. 現状

改善が進んだ点

①英語授業におけるSpeaking・Writingパフォーマンステスト両方を実施した科目の割合が向上した。

R4 = 31.6%

← R3 = 23.5%

②生徒の発信力向上と教員の指導力向上を目的とした研修会を実施し、効果的な指導の在り方について、教員相互の学びを深めることができた。

未だ改善が必要な点

①所管する学校数は少ないが、学校間で生徒の英語力に大きな開きがあることから、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は目標の55%以上には届いていない。

②授業に占める生徒の言語活動の時間及び教員の英語使用状況の割合が50%を超える割合は、科目の特性により異なるが、総開設科目の平均ではそれぞれ56%、35%と低い傾向にある。

2. 分析

①宮城県と共催で授業づくりに向けた学習評価の事例集を作成。領域ごとの言語活動案やパフォーマンステストの実践事例を掲載し、活用を促すとともに、パフォーマンステストの具体について研修を実施した。

②宮城県と共催で学習状況評価をテーマとした外部有識者による講演、推進リーダーをファシリテーターとしたワークショップ等を実施し、教員研修の充実を図った。

①専門学科では外部試験取得者も1.4%（普通科 = 30.3%）であり、取得の意識付けや指導改善に加え、単純に合格者との比較による英語力の見取りが難しいことから、英語力の評価方法を充実させる必要がある。

②学科や科目により割合の差が見られる。新科目の「英語コミュニケーション I」については、両者ともに割合が高いが、発信を主な目的とする「論理・表現 I」においては低調であり、発信力を育成する指導技術の開発が求められる。

3. 施策・事業

①②①②Teacher's Empowerment Project

宮城県と共催で大学等の外部専門機関から講師を招き、コミュニカティブな授業展開のための指導技術取得に向けて、ワークショップ形式でより効果的な指導・評価方法を学ぶ悉皆の研修会を実施し、各高校へ取り組みを広げていく。

①②①②英語運用能力講座

小～高校の各校種のテキストを活用した4技能5領域を意識した授業体験を通して、実践的指導力及び英語運用能力の向上を図る。研修は全て英語で行う。

①②外国語活動・外国語科研修

授業参観と協議を通して、校種間連携の在り方や授業づくりについて理解を深める。

◎一定の英語力を有する高等学校教師を確保するため、英語力に関する専門性を有する教員を教員採用選考における加点措置をすることにより積極的に採用する。